様式1

平成２９年度　学校評価表

学校教育目標	心豊かにたくましく　共に学び伸びるけやきっ子の育成

a ミッション	〈小中連携による学力向上の取組の充実と成果の発信〉 ○授業改善を中心とした基礎学力の向上 ○言語活動を中心とした特色ある教育活動の推進	a ビジョン〈学校教育目標：心豊かにたくましく共に学び伸びるけやきっ子の育成〉の具現化のために ○自分の考えを持ち表現できる児童の育成を目指した学習活動の展開　○自己肯定感や規範意識を育み意欲や耐性を高める道徳教育の展開 ○心や体を鍛えるとともに食育教育の充実　○地域人材を活用した授業と体験活動の推進と積極的な情報発信

尾道市立御調中央小学校

評価計画							自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	担当者	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
確かな学力の向上	教科指導の充実と確かな学力の育成	基本的な学力の向上	繰り返し徹底によるスキルアップ（ドリルタイム・授業・家庭学習） 授業改善による思考力の向上	算数問題データベースのチャレンジプリントを計画通り実施する。	坂本か・実政	100%	100%				・単元末に，チャレンジプリントを実施することで，単元内の課題をすばやく把握し，繰り返し復習をすることができた。 ・チャレンジプリントに取り組む時期と回数に課題がある。	3			わかりやすい授業の創造に向けて，日常の教材研究に努めてほしい。 成果を評価し，児童のやる気アップにつなげていってほしい。	・定着率が低い単元は，単元末だけでなく，学期末等を使って繰り返し同じ問題に取り組む。 ・他学年と教材を共有する。
				標準学力調査において全学年が全国平均点以上（年度末）	坂本し・谷川	100%					・基礎・基本定着状況調査や全国学力テストの結果から，多くの情報の中から必要な部分を見付け出すことや，問われたことに沿って言葉や式で表すこと。式の意味の理解について課題が見られることが分かった。				学期毎のまとめのテストの結果や単元毎のテストの結果を示す等，短いスパンで評価・改善ができるもの示す必要があるのではないか	・学力テストの結果分析を行い，それぞれの課題を交流した。下学年でのつまずきや，次学年へのつながりを意識し，各学年の２学期の指導に活かす。 ・どの学年においても式に単位を書き込み，問題文と関係付けていく。
			読書目標カード作成による読書量UP	各学年読書目標を達成した児童の割合	大田・吉田	80%	78%				・朝読書や家庭学習で時間を確保することで，学年の目標を達成できた児童が多かった。 ・目標は達成しているが，国語科の力につなげるために，学年に応じた内容の本を読むことができているか把握するとともに，学年ごとに推薦図書を示すことで，読書の質を高めていく必要がある。	3			各教室に書棚を設置するなど，本に触れる機会を増やす工夫をしてほしい。 家庭とも連携して進めていってほしい。	・読書の木を学期始めに開始し，意欲的に取り組ませることができるようにする。 ・「おすすめ図書一覧」を作成し，各学年の推薦図書を児童に周知することで，学年に応じた読書となるようにする。 ・図書室利用を増やし，読書量を確保するために図書委員会や各学級で計画的掲示物を作って取り組む。
豊かな心の育成	意欲や耐性を高める道徳教育の充実	自己肯定感を高め，他のよさを認められる集団の育成	誕生日を祝う全校朝会の充実	自分のよさを3つ以上，友だちのよさを一人１つ以上言える児童の割合 児童居心地点検結果○の割合	山口・太田	100%	84%				・誕生月朝会での発表や，各学級での取組もあり，約８割の児童が自分の良いところを３つ以上言え，友だちのよいところを１つ以上言うことができた。しかし，まだ自己肯定感をもつことができていない児童もいることに課題がある。	3			自己肯定感が高まるよう，今の取組を継続していくとともに，各学級での取組を組織として考え，実行していってほしい。 友だちの良いところをもっと言えるようにしていくといいのではないか。	・誕生月朝会でのコメントを限定することでしっかり発表することへの意識付けをする。 ・学級で，担任が児童のよいところを評価した発言を積極的に行い，新しい視点を示す。
		規範意識の育成	あいさつの徹底	地域の方・先生・友だちに毎朝１０人以上挨拶をしたかを点検し，合格した児童の割合（教職員チェック）	太田・長尾	90%	52%				・児童朝会でレベル５の挨拶について取り上げるなどしたことで，立ち止まって帽子を取り，大きな声で挨拶ができる児童は増えた。しかし，特定の人にしか挨拶できない児童が多く，１０人以上に挨拶できる児童は少ない。地域の方や先生へ自分から挨拶することに課題がある。	3			家庭の責任が大であり，保護者の協力を強く要請すべきである。 また，登校したときに門のところで帽子を取って挨拶するといった具体的な取組をしていくことも考えてほしい。	・教職員の挨拶指導を正門前で行い，よい挨拶の手本を示す。 ・「挨拶できている」かどうかの規準を児童に見直させる。（声の大きさや人数のとらえ方など）
			掃除の徹底	時間いっぱい丁寧に掃除ができた児童の割合（教職員チェック）	福島・木村	100%	93%				・教職員や特命委員会が，掃除場所の見回りなどを行ったことで，無言掃除を指導した回数は少なかった。中学校の掃除の様子を見せたことで，掃除は無言でしなければならないという意識をもたせることができた。しかし，達成率は100%ではなく，まだ掃除時間に話してしまう児童がいる。	3			なぜ掃除をしなければならないのかを児童に理解をさせることと併せて，掃除のやり方を具体的に示し，徹底してやり切ってほしい。 また，道具を大切にすることも教えていってほしい。	・掃除終了時のふり返りの仕方を統一する。 ・指導者が必ず肯定的評価を行い，次への意欲付けにする。
健やかな体の育成	食育の充実とたくましい体力の育成	基本的食習慣の確立	主食の摂取量の増加により健康増進	毎月19日に望ましい量の主食を持ってくる児童の割合（教職員チェック）	池田・高田	60%	72%				・4月から7月までのごはん量の計測では，すべての月で40%を超えていた。（昨年は，平均３４%）委員会の児童が，ごはんパッチを出したり，給食時間に毎日ごはんについての放送をすることで，しっかり持ってこようという意欲は高まっている。しかし，毎月目安量持ってこない児童が固定化してきている。	3			挨拶の徹底と同様に，保護者への啓発が必要である。	目標を達成できなかった児童には『頑張ろうシール』を配布し，保護者にご飯の量についてのフィードバックが届くようにする。児童には，ご飯もりもり週間に加え，5のつく日をご飯の日にし，給食委員会が放送などで呼びかける。
		基礎体力の向上	運動タイムの徹底による体力向上	一生懸命体力づくりに取り組む児童の割合（児童アンケート）	篠崎・濱中・金	100%	80%				・４月から，体育委員会主導で意欲的に朝のマラソンを走ることができた。サーキットレーニングも，体育委員会のお手本を全校で見てから始めたので，朝の時間は一生懸命やっている。逆上がりの補助具も有効に使えている。暑くなる時期から，少し話しながら走ったり，ペースを落として走る児童が増えた。	3			児童全員が最後まで徹底して取り組むことが必要である。そのためには，いつ，何をやるのかを明確にし，学校全体で取り組みを進めていかなくては成果があらわれない。ＰＴＡ子ども部会との連携も考えてみてはどうだろうか。	握力向上のための運動を健康観察中に全校で統一して行う。体育委員会を中心にグーパー運動などのデモンストレーションを児童朝会で行ったり，遊具を使った遊びの奨励をしたりする。１月に握力の再テストを行う。
信頼される学校	地域の誇りとなる学校づくりの推進	積極的な地域への情報発信	ホームページの計画的更新と内容の充実	ホームページ更新回数（毎月２回以上）	篠崎・金	100%	50%				・学校だより，学年だよりや行事の様子などをアップすることができた。 ・月２回の更新ができていない月があったため，期間があいてしまい，行事の様子などがタイムリーなものにならなかった。	2	1		更新の回数にはあまりこだわらなくてもよいのではないか。それよりも内容の充実が重要だと思う。 紙ベースで伝えることも大切にしていってほしい。	２学期から、担当者は、更新するまでを把握・確認し、未更新の場合には、しっかり声かけをしていく。また，学年だよりのデータを共有フォルダに保存することを徹底する。

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。